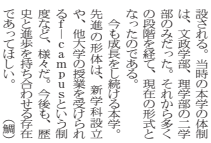
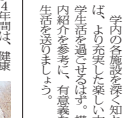




学習院大学新聞

発行所
学習院大学新聞社
〒171-8588東京都豊島区
目白1丁目5番1号
黎明会館316号室
電話 03（3986）0221内線2607
http://www-cc.gakushuin.ac.jp/~press/
press@gakushuin.ac.jp
発行・編集人　和田恵理子
年間500円

学びを忘れぬ強い心

本学OB

（株）徳間書店代表取締役会長

松下武義氏

Interview

住友銀行に入行後、専務取締役まで上り詰め、クオーク、さらには徳間書店、大映、徳間ジャパンなどの代表取締役社長を同時に勤め上げた手腕の持ち主である松下氏。企業間に多少の繋がりはあれども、職種の異なる組織を並行に運営することは並大抵の力量でこなせるものではなく、その宰領の良さは計り知れない。現在は徳間書店代表取締役会長に就任する傍ら、多摩大学大学院客員教授として経営学を教え、その能力は教育の現場からも注目されている。

松下氏の厳格な雰囲気、白黒はっきりとした話し方からは、大勢の従業員を引き連れる長としての風格が感じられた。人一倍学ぶ意識を持っていた松下氏の在学中の話は、学生の本分を思い起こさせ、新年度を迎えた我々が始めの一歩を踏みだす大きな後押しとなるだろう。

入学当初

現在、徳間書店代表取締役会長を務める松下氏は、これまでにいくつもの会社の経営を任されてきた。その経歴には目を見張るものがある。そんな凄腕の経営者が本学で過ごした大学生活とは、一体どのようなものだったのだろうか。

新生活の幕開けと言えば、新入生の多くが胸を膨らませるもの。ところが、松下氏の回想は意外な言葉で始まった。

「入学当初の私は、全く学習院に落ち着いていない学生でした。実は、籍は置いているものの受験勉強に勤しむ、いわゆる仮面浪人をしていたのです」

当時、自身の受験結果に満足していなかった胸中を、朗らかに打ち明けてくれた。本学は勉強の熱意に応える力を持つのだろうかと懐疑的であったという。

有能な教授に恵まれて

しかし、周りの学生とは少し違った姿勢は、ある時を境に一変する。その契機は、一人の先生との出会いにあった。

「たまたまクラスの担任になった渡辺保男先生と知り合って、私は即座に受験勉強を辞めました。渡辺先生は政治学を専攻され、後に国際基督教大学（ICU）の学長になった方です。新進気鋭の学者であった先生と接することは刺激的で勉強になることが多く、気付けば授業外でも交流するようになっていました」

それからの松下氏の生活には、渡辺先生が常に関わるようになった。先生には多くの書物を読むことを勧められたり、論文を書くように言われたりと、大いに勉強させられたという。しばしば本人の自宅へ招かれることもあったそうだ。

「先生からはたくさんの事を学び、非常に価値のある時間を共有しました。そういう先生と出会う機会を作ってくれた学習院にとても感謝しています。皆さんにも、生涯の過ごし方まで教えられるような人との出会いをしてほしいですね」

多くの学生が娯楽にうつつを抜かす中で、松下氏は人生の師とも呼べる先生と日々を重ねることを優先した。青年期から持つ周囲に流されない信念の強さが、インタビュー時の穏やかながらはっきりとした口調からもがうかがえた。

若き日の松下氏（左）と渡辺先生（右）

さらに、松下氏の在学時代にはもう一人、特筆すべき偉大な先生がいたという。それは、安倍能成（よししげ）先生である。本学の院長を務めながら雄弁な自由主義を唱えた哲学者であった。

「安倍先生の講義にはたくさんの学生が詰めかけ、毎回必ず立ち見が出ていたものです。もちろん私もその講堂へと足を運びましたよ。先生は怠ける人間を嫌っており、常に『勉強しなさい、嘘をつくな』と言っていたのを覚えています」

その言葉に聴講した誰もが共感し、勉学に励んだという。松下氏は、安倍先生程に研究者としての魅力を持つ人間はいないと断言した。

「今も有能な教諭陣が集まっていると思いますが、どうか私がこの二人の先生方から受けたように、真剣に学生と向かいあって指導してやってほしいと願うばかりです。教授の生きがいは、自分を教えることのみにあると思います」

自然を堪能し、学ぶ

勉強熱心な松下氏だが、机に向かうだけでなく、存分に太陽の光も浴びた。毎夏休みには霧が峰の山小屋で長期宿泊をしたという。そこでは電気、ガス、水道なしの環境で、ラジオの使用を禁止し、蝋燭の火で薪を焚いて川の水を飲む、自然に身を委ねた生活を楽しんだそうだ。

「渡辺先生を始めとして、様々な大学の学生や教授、社会人までもが集まり、夜が明けるまで人生を語り、哲学を語り、討論をしました。時には誰かがギターを弾いたり、近くの山を散策しに行ったりと、楽しい思い出ばかりです」

稀少な一時に思いを馳せる姿が印象的であった。慕うべき先生や志高い同士と刺激しながら学問に励む日々。これこそ理想的な夏の思い出であると言えよう。

それに加えて、松下氏は日常にある緑にも言及した。それは本学が誇る、キャンパス内の豊富な自然についてである。

「学内には、どこに目をやっても植物が見受けられますね。学習院は昔『目白の森』と言われていたのですよ。特に乃木館や図書館の辺りは一面に木々が茂っていて、まさに森でしたね。溢れんばかりの草木に包まれて過ごす4年間は、健康的で素晴らしい時間だったと思います」

しかし、時が経つにつれて新学科設営などにより建物が増設され、学内の自然は減っている。この現状に対し松下氏は、緑の減少はまるで若き頃の思い出が削られているようだと寂しそうに話し、またこのような経営が将来負担にならないことを祈りたい、と心中を語った。

様々な経験

大学卒業後、住友銀行や信販会社であるクオーク、徳間書店（スタジオジブリを含む）、映画の大映、レコードの徳間ジャパンと、多くの経営に関わってきた松下氏。その中で彼の心に印象深く残るようなものはあったのであろうか。

「私は、住友銀行に31年間、その後、総資産3兆円にもなる信販会社クオークに8年間いました。そして、2001年からここ、徳間書店に勤めています。過去私は、戦後日本に起こった数多くの経済事件に関わり、企業再建の仕事をしました。自分の中で、特別思い出に残るような仕事というものは、全てがそうであるとも言えるし、そうでもないとも言えますね。あまり過去の出来事を振り返ることはしないのです。その仕事が終わったら、同時に自分の中でも完結します。記録も残しませんね。すぐ次のターゲットに意識を移して行きました」

今、目の前にある課題に全力で取り組む。言葉にするととても簡潔であるが、実現するのは難しい。だが松下氏は、それを実行し続ける意志の強さをありありと私達に感じさせた。

働くことへの信念

たくさんの仕事を成功させてきた松下氏。では、成果のみを求めて彼は働いてきたのだろうか。

「自分の立場や出世は、必死に働いた結果としてあると言えるでしょう。肩書きを欲して仕事をしたことはありません。作業をしていく中で、他人に褒められたいと思ったこともないですね。自分の考えた計画が上手くいけば、満足なのです。人に認めてもらおうとすると、不満などが生じるのでしょう。経営はナルシズムで良いと思います」

和やかに、だが力強く彼は考えを語る。さらに彼は会社では、群れを成すのを好まないそうだ。派閥のようなものを作ることもしないと言う。

「しかし、もちろん一人で仕事をやってきたというわけではありません。一人で多くの問題と向き合いつつ、色々な人からの助けを受けて仕事をしてきました」

松下氏は、長い時間を社会人として過ごしてきた先輩でもある。学生としてよりも、遥かに多くの困難に対面することがあるだろう。仕事をする時の信念は、何なのだろうか。

「私は、仕事人間です。趣味は、と聞かれても仕事と答えるでしょう。多種類の業務をしてきた中での信念とは、絶対にillegal、卑怯なことはしない、ということです。何を言われても、自信を持てるようにしていました。そして、自分のために仕事をしない、ですね。あとは、自分が正しいと思った方法は執念を持って突き通すことです。これらは、今ある結果から見て、そうだと思っています」

構内の道を鮮やかな緑が囲う

学生へ向けて

「まず、大学へなぜ入ったのかを忘れてはいけません。大学というものの根本は、面白くもなく、厳しい勉強をするためにあります。しかし実際は、これから4年間を楽しく過ごそう、と思って入学する人が少なくありません。また、そうでなくても1、2年で心地よい学生生活に浸ってしまう人が多いでしょう」

そうした学生時代に学問に集中しなかった人間は、長い視点で見ると、つまらない人になると考えるそうだ。あるいは、本人も晩年になって後悔をするかもしれない、と松下氏は加えた。交友関係を広め、様々なことをして遊ぶのも良いことである。しかし、これは己の成長の糧への発展性を持たない、とも語る。

「勉強の過程で知識を仕入れ、考える力を訓練するということは、学生時代にしか出来ないことなのですよ。4年という時間のあり方を後悔するぐらいなら、大学に来ない方が良いのではないのでしょうか。これが、長い間生きてきた私の体験から言えることです」

勉強した人間か、していない人間かは、見ていて分かるという。勉強と言っても、ただ単に試験の成績が良い、ということだけではない。『何か』に夢中になって学んでいくことである。自分の中に財産として残るような、学問への姿勢を持つことが大切なのだ。松下氏は、ニューヨークや、サンフランシスコに住んでいたこともあり、アメリカの学生たちの生き方をよく知っているそうだ。

「アメリカの学生は、1週間にハードカバーの本を2冊読まないと、授業についていけないと言います。特に、アメリカの女子学生は、高校生まではおしゃれをふんだんにします。しかし、大学生になると、なりふり構わず学問に集中しますね。いや、勉学に夢中にならないと、単位をもらえないのでしょう」

海外へ留学をして、大学を4年間で卒業できる日本人は、1割にも達していないという。また、アメリカの学生の読書量と、日本の学生の読書量には10倍ほどの開きがあるそうだ。これは、日本の大学生がいかに勉強をしていないか、ということを示しているのだろう。

「私は、就職の決まった大学生に、何か一つ、大きなものに立ち向かい、人に自信を持ってやり遂げたと言えることをやってこい、と言います。その一つを成すための土台作りとして、万巻の書を読むことが大切でしょう。学生は始めから、学ぶ範囲を狭めるのではなく、専門外の分野からも多くの知識を吸収することが重要ですね。そこから、自分の好みを見付けていくのです。もう一つは世界を自分の目で見ることです」

人生を過ごしていく中で、多くを学び、広い視野を持つこと、それが自分の生涯の目標へと繋がるのであろう。自ら学びを求める姿勢の大切さを私達に語りかけた松下氏。何かを探求することの価値を教えてくれた。新入生も、在学生も、大学生活の過ごし方を、妥協せずに考えてみることをお勧めしたい。

取材　伊藤桃子　原田富美子
　　　深田杏　和田恵理子
写真提供
取材協力　株式会社　徳間書店

PROFILE

◇松下武義（まつした　たけよし）
◇1938年2月10日生まれ、富山県出身
◇1960年、本学政経学部政治学科を卒業し同年4月、住友銀行へ入行。東京秘書室長、総務部長を経て、1985年に同社取締役、1988年に同社常務取締役、1991年には専務取締役、加州住友銀行代表取締役会長となる。その後、1999年にはクオークを設立し、同時に代表取締役会長に就任。さらに2001年1月からは徳間書店（含スタジオジブリ）、大映、徳間ジャパンなど各社の代表取締役社長を務めた。2009年3月現在、徳間書店代表取締役会長、多摩大学院客員教授として活躍している。
◇主な映画作品
『千と千尋の神隠し』（2001年7月）
『猫の恩返し』（2002年7月）
『イノセンス』（2004年3月）
『ハウルの動く城』（2004年11月）
◇主な著書
『経営と権力』（2000年、NHK出版）

徳間書店のあらまし

徳間書店の出版物

徳間書店の歴史は、1954年、東京都港区新橋に株式会社東西芸能出版社が誕生したことから始まる（02年に本社所在地を移転。現在は港区芝大門）。創業30周年を迎えた1984年には、株式会社博報堂と『風の谷のナウシカ』を共同制作。この作品を始め、ジブリ作品は公開されるたびに爆発的な人気、話題を呼んだ。

また徳間書店は、優秀な小説作品および作家に贈られる「大藪春彦賞」や、SF作品の傑作に与えられる「日本SF大賞」を後援するなど、日本の文芸発展に大きく寄与している他、ノーベル賞経済学者スティグリッツ氏の出版会社としても知られる。ちなみに、2005年4月からは徳間書店事業本部が株式会社徳間書店、スタジオジブリ事業本部が株式会社スタジオジブリとして分立した。

学習院の歴史

季節は春を迎え、桜が咲き誇っている。目白に集う学生達の顔ぶれも新しくなったことだろう。ところで、我々が時を共に過ごす学習院はどのような所で、どんな歴史を辿ってきたのかを知っているだろうか。ここでは、本院の歩んだ軌跡を紹介する。

学習院は、1847年3月、京都に公家を対象とした教育機関として創設された。当時は学習所や修学所とも呼ばれていたが、1849年4月、考明天皇より勅額が下賜され、「学習院」が正式名称となった。この名は論語冒頭の「学而時習之、不亦説乎」（学びて時にこれを習う、またよろこばしからずや）に基づくとされている。その後、京都の学習院は1870年7月に門を閉じた。東京に移った本院は、火災により神田から四谷へ移動する。また、四谷校舎は1894年に発生した地震により多大な被害を受け、施設を新たに建設することになる。そして、1896年に一部を残し、目白への移転が決定した。

学習院は始め、華族会館が運営する私立学校であった。次いで1884年に宮内省所管の官立学校となったが、1947年3月に廃止し、財団法人として始動。そして、1949年には学習院大学が新設される。当時の本学の体制は、文政学部、理学部の二学部のみだった。それから多くの段階を経て、現在の形式となったのである。

今も成長をし続ける本学。先進の形体は、新学科設立や、他大学の授業を受けられるf－campusという制度など、様々だ。今後も、歴史と進歩を持ち合わせる存在であってほしい。（鯛）

明窓浄机

私は、小説を読むことが苦手だ。理由は、自分でもよく分からない。とにかく、読んでいる最中に気が散って仕方がなくなってしまうのだ。日文科所属の身としては、できるだけ読書を習慣にしたいのだが、なかなかうまくいかない▼そんな私も、マンガだけは例外だ。毎週月水木は、コンビニでの立ち読みが日課となっている。この時の集中力は、一旦読み始めると、話し掛けられても全く気付かない程である▼傍から見れば、これは由々しき事態だ。勉学が本業であるはずの学生が、本ではなくマンガばかり読んでいるのだから。これでは、いつ教育的指導をされてもおかしくない▼だが私は、この生活が間違っているとは思わない。なぜなら、マンガからもたくさんのことを学べるからだ。教科書や参考書よりも、マンガから学ぶほうが理解しやすいことも多い。学校での勉強に役立つだけでなく、世の中の文化や流行などを知る手助けにもなる。こんなに有能で、しかも面白いものを、使わない手はないのである▼新入生諸君にも是非、時間を見付けて様々なマンガを読んでもらいたい。しかし、小説などの本を読むことが重要であるのも、また事実である。皆さんには、読書を放棄するようなことはして頂きたくない。「諦めたらそこで試合終了」なのだから。（笑）

紙面紹介

2・3 学習院を徹底案内

学内の各施設を深く知れば、より充実した楽しい大学生活を過ごせるはず。構内紹介を参考に、有意義な生活を送りましょう。

4 目白グルメ紹介

お昼はついついコンビニや学食で済ましがち。そんなあなたも、目白の街でお気に入りの一店を探してみてはいかがですか？

神のお告げ

春眠暁を覚えず――春の寝心地程良いものはない。最近では座りながら寝るという技を身に付けてしまったがために、編集作業中にうとうとしてしまうことも……。睡眠はきちんと布団の中で取るべし。（神）

新入生歓迎～学長寄稿～

多様な場で積極的な挑戦を

学長　福井憲彦教授

学長先生から、新入生の皆さんに歓迎のお言葉を頂きました。

◇　◇　◇

ようこそ新入生の皆さん。大学生としての毎日は、高校時代とはかなり違ったものとなるでしょう。新鮮な気持ちで様々なことに挑戦してほしい、と思います。

まず何より、自分で目標を定めて、それぞれの学部学科での勉強に励んでください。慣れないうちは少しまごつくかもしれませんが、始めが肝腎です。そうでないと、やがて4年生になって、1年次の開始から4年の卒業に至るまでを振り返った時、もっと時間を有効に使って勉強しておくのだった、という思いを持つことは間違いないでしょう。

地球世界を見渡せば、小学校や中学校にすら十分に行けない子供達も少なくありません。内戦などの戦火にさらされて、安全すら確保できない地域で暮らさざるを得ない人達もいます。皆さんのように十分な環境にあって、それを自分のため、世の中のために有効に活用しないとすれば「バチが当たりますよ」と言いたいと思います。

勉強というのは、与えられた枠組みで知識を獲得するだけではありません。現在の世界はおそらく、大きな文明史的な転換期にあります。とすれば、既成の解答がどこかにあって探せば良い、という問題だけではなく、自分達の手で問題の所在自体を明らかにして、それへの解答を探求することが、様々な場面で求められるでしょう。皆さんはこれから、そうした世界で生きていくための力を、自らの内に蓄えてほしいと思います。すでにある知識を吸収するだけでなく、積極的に様々な場を経験して応用力を磨けば、皆さんには必ずそれができる。受身の姿勢から、自ら進んで動く姿勢に転換できれば、必ずできます。

スポーツ系にせよ文化系にせよ、クラブ活動に積極的に関わって、自分とは異なる学部学科の仲間と接したり、違う学年同士で切磋琢磨したり、さらにはずっと年上の先輩達に協力を仰ぐ。そういった、一つ一つは小さな経験と努力の積み重ねが、人と人の繋がりの大切さを実感させ、最終的には皆さんを大きくしてくれます。生きるということは、そういう積み重ねです。もちろんそれは、ゼミの運営、学内外のボランティア活動への参加、家族の中での介護、といった経験でも良い。可能な場は、様々にあるはずです。

今までも、そうして大きく成長していった皆さんの先輩達を、我々教職員は嬉しくもあり、まぶしくもあるような思いで、毎年送り出しています。皆さんも4年後にそうあってほしい、それはできる、と期待しています。

私達の学び舎

実学系の拠点

正門から緑の木々が生い茂る細い道を抜けると、そこには一際目を引く高大なビルが見えてきます。ここは**東2号館**、通称**法経棟**と呼ばれています。実は本学にある他のどの建物よりも高い、13階建てを誇るこの棟。平成5年竣工と比較的新しく、設備も整っているため、綺麗に感じられるのではないでしょうか。

その名の通り、法経棟には法学部や経済学部の学生、教授向けのスペースが多く、法学部と経済学部の研究室もこの棟にあります。研究室があるということは、レポートを提出しに行く際、教授にばったり遭遇することもしばしば。知っている教授に会ったら挨拶しましょうね。

また、この棟の5階から7階は、法経図書センターになっています。ここには法学、経済学系の蔵書が豊富に揃っています。それだけでなく、パソコンや自習室も設置されていて、勉強をしたい人のための空間がばっちり完備されていますよ。なので、テスト期間中は学生でごった返しになります。

そして意外と知られていないのが、ここの2階にある経済学部演習室。多数のパソコンに加え、プリンタまで設置されているので、まさに穴場スポットと言えます。経済学部の学生でなくとも入れますよ。

法学部、経済学部の学生ならば、試験勉強やゼミの授業などで、頻繁にこの棟を利用することになると思います。この素晴らしい環境を存分に使い倒しましょう。

（周防和明）

文学部生が集う場所

通称**文学部棟**として親しまれている**北2号館**。その呼称の通り、文学部の各学科の事務室や研究室、書庫などがこの建物に集結しています。また、教職課程や外国語教育研究センターの事務室もここにあります。そのため、文学部の学生に限らず、多くの人がお世話になることでしょう。

この棟は、学科ごとにフロアが分かれているのが特徴です。各階にある閲覧室や談話室は、いつも自習やグループ発表の打ち合わせをする学生で賑わっています。と言うのも、各学科が所蔵する専門の資料はかなり充実しているため。大学図書館に置いていない資料まで揃っている程なので、自習などにはうってつけなのです。

ただし、閲覧室や事務室の開室時間、使用のルールは学科によって異なるので、利用の際は注意が必要です。それと、事務室でレポートを提出する場合、閉室間際だと受領してもらえないことも……。課題には余裕を持って取り組みましょうね。

また、各階の廊下には学科専用の掲示板があります。授業や履修に関する情報、重要な連絡事項が掲示されるので、見落とさないようにしましょう。その他に、講演会や展覧会のポスターなども貼られています。興味のある人は、他学科の掲示板も覗いてみてもいいかもしれません。

勉学にも学生生活にも欠かせない文学部棟。特に文学部の学生にとっては、思い出深い場所となるはずです。

（美馬香織）

独特な風貌の南1号館

どっしり構える法経棟

地階もある文学部棟

理学部生の強い味方

毎年学界で様々な実績を挙げている理学部。そんな理学部生がよく使う主要な棟を見ていきましょう。

1927年に理科教室として建てられた**南1号館**は理学部のシンボル的存在です。この建物には、物理学科と化学科の研究室や学部掲示板、ロッカーが設置されています。掲示板には、普段の連絡事項以外にもテストの日程などが張り出されるので、きちんと見ておきましょうね。それと、理学部の事務室があるのもこの館です。何か困ったことがあったら、ここで相談することができますよ。

その南1号館の東側にある建物が、**理学部棟**と呼ばれている**南4号館**です。ここに置かれているのは、理学部の研究室や実験室の一部と、各学科の専用図書館。この理学部図書館は、物理と化学専門の本を所蔵している1階と、数学専門の本を所蔵している3階に分かれています。ここは他の図書館と異なり、理系専門の書籍が十分に揃っています。理学部生はもちろんのこと、科学や数学に少しでも興味がある人は、立ち寄ってみてはどうでしょうか。

また、理学部棟の向かいにある**南3号館**には多くの教室があります。中には講義用の他に、情報処理の授業で使用する教室も存在します。そのため、ここは理学部の授業以外にも頻繁に使用されますね。

西門から遠い建物ばかりですが、緑が多く、とても勉強しやすい環境となっています。この施設のもとで有意義な4年間を過ごしましょう。

（石井康祐）

学生ならばまずここへ

静かな場所で勉強や読書がしたい、課題作成のための資料を探したい――。そんな時に是非訪れてもらいたいのがここ、**大学図書館**です。学内最大のこの図書館は、あなたの学生生活を円滑に進めるための有力なサポーターとなってくれることでしょう。

では早速、学生証をゲートに通していざ入館。1階と2階には専門書から雑誌まで様々な書物が所蔵されていて、それらは自由に閲覧が可能です。もしも気になる本が見付かったら、どんどん借りてみましょう。本の貸出は一度に10冊まで、貸出期限は図書が2週間、雑誌が1週間となっています。ですが、中には借りられないものもあるので注意してください。本を借りる時には、カウンターや自動貸出機で手続きをしましょう。

また、本をお探しの際には蔵書検索システム「GLIM／OPAC」を利用してみてください。時には掘り出し物が見付かるかもしれません。この機能は、館内だけでなく本学のサイトからも利用できます。

3階に上がると、自習や閲覧のための机が所狭しと並んでいます。試験期間中には、ほぼ満席になってしまうので、利用したい場合はお早めに。また、この階にはパソコンも設置されており、調べ物やレポート作成の際にも役立つことでしょう。

このように、大学図書館には様々な設備が整っています。新入生の皆さんもこれらを有効に活用して、充実した日々を送ってください。

（宮下秀毅）

パソコンの宝庫

大学生になると大量に課されるレポート。そのほとんどはパソコンでの作成を求められます。他にも課題の資料探しや、後々には就職活動の情報収集にも、パソコンはなくてはなりません。そのための施設として、本学では**計算機センター**が設けられています。

この一見古い雰囲気の建物の中には、なんと178台ものパソコンが置かれており、さらにスキャナやデジカメまであります。また、有料のカラープリンタも備えられていますよ。

しかし、皆さんの中には電子機器は苦手という方がいるでしょう。そんな方も安心して下さい。室内には、パソコンに精通したインストラクターがいます。彼らは学内でアルバイトとして採用された学生なので、困った時は気軽に声をかけてみましょう。夏には「ホームページの運営」など、少し発展的な内容の講習会も開催されています。

では、こんな便利な場所がどこにあるのかをご案内しましょう。南4号館と南6号館の間を通り抜けた、構内の奥まった所に建てられています。若干、西門から遠いことが難点ですが、窓から見える樹木が、疲れた目を癒してくれるはず。なお、開室時間は平日9～18時、土曜日9～14時なので気を付けましょう。

学習院内でも屈指の最先端機器が集う場所、計算機センター。今後、どんどん活用してもらいたいのですが、注意してほしいことがあります。それは飲食や、大量印刷はできないことです。計算機センターに限らず、施設を利用する時にはマナーを守り、大学生の自覚を持って使用しましょうね。

（菊岡真衣）

誰もが満足な設備

困った時は

学生生活のサポーター

「財布を落としてしまった」「テストの日に学生証を持ってくるのを忘れてしまった」――。もしこのようなアクシデントに見舞われたら、どうしたら良いのでしょうか。そんな時は、西5号館4階にある**学生部**に行きましょう。

学生部では、課外活動など学生に関わる仕事を中心に行っています。大学構内での落とし物や忘れ物の届け先もここ。持ち主が分からない落とし物は、学生部カウンターの向かい側に設置してある忘れ物コーナーに保管されています。もし、そこに自分の物があった場合は、学生証を持って受付に伝えましょう。

また、定期試験当日に学生証を忘れると、テストが受けられなくなってしまいます。そんな時必要になる仮学生証の発行も学生部まで。手数料の100円を払えばすぐに発行することが可能ですよ。

学生証といえば、紛失してしまったらどうやって再発行するのでしょうか。それにはまず学生部の窓口に届け出て、学生証再発行願と申込書をもらってください。後日、記入して手数料を払えば発行してもらえます。

新入生の皆さんの中には、奨学金制度を使おうとしている人が少なからずいるでしょう。この奨学金窓口も学生部の管轄です。奨学金の募集や連絡は北1号館の学生部掲示板に掲示されるので、こまめにチェックしておきましょうね。

他にも学生部が受け持っている仕事は多々あります。私達が有意義に大学生活を送れるように様々なサポートをしてくれているのです。

（石井康祐）

学生部の受付です

明るい雰囲気の相談室

心と体をケアします

急に具合が悪くなったり、けがをしてしまったり、あるいは進路や日常生活で悩んでしまったりしたら……。そんないざという時のために、あなたの力になってくれる場所が本学にはあります。

まず、どこの大学にも必ずある**保健室**。入学時の健康診断の際にもお世話になる保健室ですが、どこにあるのかは皆さんご存知でしょうか。西2号館の西側にある外階段を下ると、地下1階にトレーニングルームと並んで保健室があります。学内で急に体調を崩してしまった時は、無理せず訪れてみましょう。部活などでけがをした際にも、きっと親切に対応してくれるはずです。

次に紹介するのは、北1号館2階の東側にある**学生相談室**です。私達学生が悩んでいることや困っていることについて、広く相談に乗ってくれます。

毎日を勉強や部活で忙しく過ごすうちに、悩みやストレスは蓄積してしまいがち。人間関係や恋愛に苦労することもあるかもしれません。少しでも辛いと感じたら、一人で悩まずに気軽に足を運んでみてはいかがでしょう。ちなみに相談室内にある待合室では、本やマンガを自由に読むこともできますよ。リラックスできる雰囲気の相談室は、ついつい遊びに行きたくなってしまいます。

皆さんが困った時には温かく支えてくれる保健室と相談室。感謝と共に覚えておくと良いのではないでしょうか。

（筒井久実子）

履修を組もう

新入生は要確認

新入生の皆さんは、これから4年間という時間を本学で過ごしていくことになります。今、皆さんはどのような大学生活を送りたいとお考えでしょう。部活やサークルで青春を謳歌したいですか。はたまた恋愛に花を咲かせたいですか。どれも素晴らしいことです。

しかし、学生の本分である学業は忘れてはいけません。大学の勉強は、中学校や高校とは大きく異なる点があり、時間割を完全に自分で埋めていく必要があります。そこで、ここでは皆さんがきちんと履修を組めるよう、お手伝いをさせて頂きます。

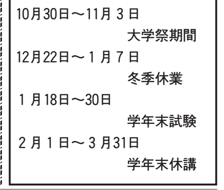
では始めに、履修要覧で自分の所属学科のページに目を通しましょう。それぞれの学科ごとに、授業を履修する上でのルールがあります。例えば、法学部政治学科は年間40単位までしか取れません。こうした確認を忘れずに。

次に、必修科目から見ていきましょう。これは、決められた数をきっちり取らないことには卒業できません。逆に、この科目を最優先に埋めていけば、間違うことはないでしょう。他には選択科目、選択必修科目などがあります。こちらも、場合によっては一定数取らなくてはならないので、注意してください。知的好奇心をくすぐる科目や、興味のある分野を選ぶと良いでしょう。

ちなみに第2外国語は、文学部と理学部、法学部法学科では必修科目となっていますが、その他の学科では自由科目扱いです。また、体育は文学部、理学部のみ必修です。何にせよ、シラバスを読み、できる限り自分が面白そうだと感じた授業を取りましょうね。

また、履修に関して困ったら、新歓期間中に先輩達をどんどん活用しましょう。この授業は単位を取りやすいとか、この教授の話は面白いとか、シラバスには載っていないお得な情報をゲットできるかもしれません。もちろん我が大学新聞社でも、履修の相談を受け付けておりますので、是非黎明会館316号室へ気軽にお越しください。

（坊）



平成21年度学年暦

4月10日	授業開始
5月15日	開学記念日
7月18日～31日	学期末試験
8月1日～9月13日	夏季休業
10月16日～18日	四大戦
10月17日	開院記念日
10月30日～11月3日	大学祭期間
12月22日～1月7日	冬季休業
1月18日～30日	学年末試験
2月1日～3月31日	学年末休講

建物界の新入生

一目では見渡せない程、広大な学習院のキャンパス。天気の良い日には、散歩がてら構内を探索してみてはどうでしょうか。すると、塀で囲まれた工事中のエリアがいくつかあることに気付くはずです。ここでは、メインの二つに注目してみましょう。

南1号館の裏側に、何やら建設中の建物があるのが見えるでしょうか。これが**自然科学研究棟**（仮称）です。完成後には、理学部の研究室や設備が一挙にここに集約されます。

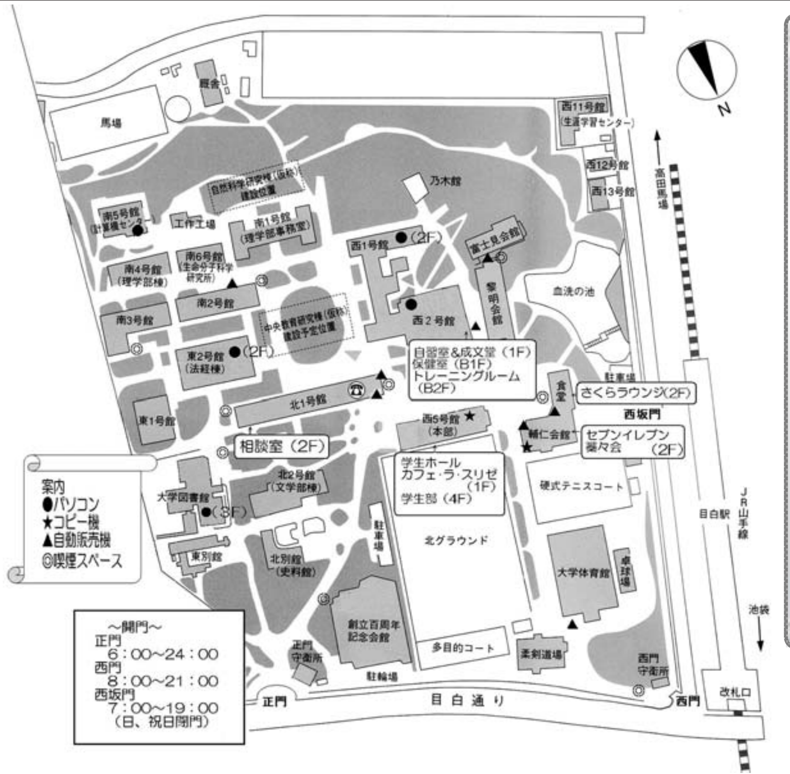
それでは、内部構造を紹介しましょう。1～3階には学生展示ホールや学生実験室、講義実験室など、多くの学生が利用する施設が、そして4～9階には、最先端の研究が行われる研究室や実験室が配置されます。また、各フロアにはラウンジも設けられるので、理学部の皆さんは、様々な場面でこれらの施設にお世話になるでしょう。

次に、北1号館の南側に目を向けてみてください。この場所には、去年まで中央教室（通称ピラミッド校舎）が建っていました。その跡地に建てられるのは、**中央教育研究棟**（仮称）です。ここには普通教室だけでなく、学生センターや学生相談室、さらには最上階の12階に、同時通訳ブースを備えた国際会議場といったものまでが入る予定になっています。今後は、海外の要人が本学で講義、なんてこともあるかもしれません。

自然棟は来年の4月から、中央棟は同年9月から（一部4月から）利用が開始されます。なお完成後には、自然棟は南7号館、中央棟は中央教育研究棟という名称になります。どちらの建物も、これからの学習院を代表する存在になっていくことでしょう。これらの二つの棟を在学生より長く使える新入生の皆さんが、羨ましい限りです。

（笑）

平成21年度学習院大学キャンパスマップ



学生の生活の場

利用法はあなた次第

学部学科にかかわらず、誰もが気軽に足を運べる場所。その一例として、今回は**学生ホール**と**西2号館自習室**を取り上げます。

まず紹介するのは、コーヒーブレイクにちょっと立ち寄りたい、西5号館1階にある学生ホールです。高い天井は開放感たっぷり。ホールの隅には小さなカフェもあるので、コーヒーを片手に友人とゆったりコミュニケーションを図るのもいいでしょう。

コーヒーを飲むだけでなく、ランチや自習もできる学生ホール。時にはサークルの話し合いの場所にもなります。また試験期間には、グループで試験勉強をする学生で一層の賑わいを見せます。ここでの友人同士の情報交換が、あなたの成績を左右するものになるかもしれません。

次に、西2号館1階のエントランスの奥にある自習室を紹介しましょう。ここには、パソコンが48台とプリンタ2台が設置されています。もちろんインターネットにも接続されているため、レポート作成や暇潰しにももってこいの環境。わざわざ計算機センターまで足を延ばさずとも、存分にパソコンと向き合えます。

新学期の慌ただしさから逃れ、春の暖かな光の中でうたた寝するにもぴったりな学生ホール。そして、ちょっと調べものをしたい時にも気軽に利用できる自習室。この2カ所を駆使すれば、学生生活がより充実したものになること請け合いです。

（田上ひかり）

広い学生ホールに集う学生の姿が見られる

大学で腹ごしらえ

勉強に部活にと頑張ると、とにかくお腹が空きますよね。そんな時にはやっぱり学生食堂。輔仁会館1階の**カフェテリア杜**に足を運んでみてください。定番のカレーやから揚げ丼の他にも日替わりのランチセット、スパゲティが食べられます。温かく栄養満点のメニューでお腹を満たしてはいかがでしょう。

カフェテリア杜では同じく1階にテイクアウトコーナーがあり、教室で食べたい人にもうってつけ。2階にはヌードルコーナーが設置されているので、ラーメンやうどんも味わえます。

そのさらに奥にある**さくらラウンジ**は、少しリッチな雰囲気ですが、1g1円のビュッフェは是非一度食べてみたいものです。

学食やレストランも良いけれど、部室や学生ホールで皆と食事をしたい時もありますよね。西5号館の学生ホールと隣接している売店、**カフェ・ラ・スリゼ**がそんな要望に応えてくれます。昼食のお弁当やパンはもちろん、飲み物やお菓子も豊富な品揃え。カウンターではアイスクリームなら「愛す・くりーむ」を頼むこともできるので、夏の暑い日に注文してみてはいかがでしょうか。

最後に学習院大生の命綱とも言える学内にあるコンビニ、**セブンイレブン**を紹介しましょう。学外の店舗と同様、飲食物から日常雑貨まで、主要なものはここで手に入ります。流石に24時間営業ではありませんが、7時から22時の営業時間は、朝練があったり夜遅くまで学内に残りがちな学生にはありがたいですね。

昼食でも夕食でもおやつでも――。あなたのスタイルや気分に合わせて、これらのお店を活用してみてください。

（筒井久実子）

パソコン・コピー機ここで使えます

これからの学生生活に欠かせないものとなってくるパソコン。ここでは、皆さんが学内で使うことのできるパソコンの設置場所をご紹介します。

まず、利用にはユーザー登録が必要です。そのためには、初等情報処理1か情報処理入門1の授業を履修しなければなりません。いずれかの単位を修得すれば、卒業まで継続して使えるようになりますよ。

さて、登録を済ませたら早速利用してみましょう。授業以外で自由に使えるパソコンは主に、計算機センター、西2号館1階自習室とエスカレーター脇のサービスコーナー、法経棟2階コンピュータ室、大学図書館3階コンピュータ室に設置されています。

ちなみに、学内のプリンタで同一文書を大量印刷することは禁止されています。レジュメなど、何枚も必要な場合はコピー機を利用してください。コピー機は、西5号館中2階のコピーコーナーに10台、輔仁会館2階のセブンイレブンに2台置かれています。ここはテスト前になると、ノートをコピーする学生で長蛇の列ができることも。コピー機に頼り過ぎず、普段からコツコツ勉強しておきましょうね。（香）

【開室時間一覧】
（プリンタの設置箇所には※印）

- 計算機センター※
  平日9～18時、土曜9～14時
- 西2号館自習室※
  平日9～20時、土曜9～17時
- 法経棟2階コンピュータ室※
  平日9～20時、土曜9～17時
- 大学図書館3階コンピュータ室
  図書館の開館時間に同じ
- 西5号館中2階コピーコーナー
  平日、土曜　8時30分～19時

学生達の溜まり場

新歓期には部やサークルからの勧誘が後を絶ちません。部室のある団体に連れられ、たどり着く先の白い建物が、**黎明会館**と**富士見会館**です。

黎明会館は部室棟として使用され、約130もの部室が存在します。そのため平日のみならず、休日も部室棟は学生で賑わっています。各階には水道、お手洗い、ゴミ箱があり、不便なく過ごせるでしょう。

黎明会館を南に一直線に進んでいくと見えてくるのが、次に紹介する富士見会館です。ここには、和室、弓道場、防音室、アトリエなどの施設があり、学生が各活動に打ち込めるように配慮された建物なんですよ。3階にある多目的ホールや、生い茂る緑に囲まれたテラスは、部活動の合間に一息入れるお勧めのスポットです。

ちなみに、黎明会館は坂の途中に建てられたため、輔仁会館側から入ると1階であるはずの階が、実は2階となっています。館内を回る時には迷子にならないよう注意が必要ですよ。どちらの館も、開館時間は6時から22時30分まで。閉館時には警備員の方が見回りに来るので、速やかに退室しましょうね。

部室にはそれぞれの部、サークル特有のカラーがあります。そのため、端から館内を歩き回って、部室を覗くのもサークル選びの一つの手です。大学生活を始める際、勉学だけでなく部活やサークルにも挑戦しようと思うなら、まずこの建物を訪れてみるのが良いでしょう。自分に合った居場所がきっと見付かるはずですよ。

（谷口竜基）

部活動の中心となる黎明会館

文房具と本を求めて

駅から一番近いキャンパスへの入り口である西門から道なりに進むと、右手に見えてくる白い建物が輔仁会館です。その2階、セブンイレブンの真正面に**蓁々会**はあります。

ここはシャープペンシル、消しゴム、レポート用紙などを取り揃える「文房具屋さん」ですが、それだけではありません。普通自動車免許、日商簿記、公務員試験対策――店舗の壁に貼られた数々の資格講座の受付を行っているのも蓁々会なのです。

また、店内には文具以外にも目を引くものが置いてありますよ。入学祝いのお返しとして人気のテディベアやおせんべい、教科書を運ぶのに便利なクラッチバッグです。どれにも桜の院章が記され、プレゼントしたり自分で使ったりしてみれば、学習院大生らしさをアピールできるでしょう。

蓁々会を後にして、芝生のある広場を斜めに横切るとぶつかる西2号館。その1階奥にある**成文堂**は構内唯一の書店です。

ここでは授業で指定された教材が買えます。1階は各学科や総合基礎科目などの教科書、2階は語学のテキストを販売していますが、売り切れることもあるので早めの購入を心掛けましょう。他にも文庫本や語学、就職試験の参考書まで扱っており、後々までお世話になりそうです。価格も消費税分が値引きされているので、ここで買うのがお得です。ちなみにTOEICや漢字検定といった各種検定の申し込みもできますよ。

蓁々会と成文堂、どちらも勉学の基礎となるものが用意されている空間です。それらはあなたの勉強意欲を刺激するでしょう。ちょっと疲れた時は、この二つの場所を訪れて、熱意を取り戻してはどうですか。

（小畑裕輝）

熱心に本を読みふける学生も

運動不足を解消しよう

夜遅くまで明かりが点き、練習に励む声が響き続ける――。そんな熱気に満ちる**体育館**を紹介しましょう。ここは主に部活動や体育の授業で使われ、卓球場とも接続しています。

利用時間は、8時30分から20時までとなっていて、14時40分までは授業が優先されています。15時以降は部活動で使用され、多数の部員が汗を流し、活気溢れる様子が見られるでしょう。様々なスポーツが行われているので、運動好きな人はお世話になることが多くなるかもしれません。

続いて紹介する**トレーニングルーム**は、西2号館の地下にあります。開室時間は毎月ごとに掲示され、ホームページ上にも掲載されます。少し分かり辛い場所に位置していますが、だからといって、この場所を使わないのはもったいない。室内ランニングコースやトレーニングマシンなどがあり、自分の思い通りに体を鍛えていくことが可能です。ここにはインストラクターが常駐しているので、何か分からないことがあったら聞いてみましょう。ただし利用するには、トレーニングルームの講習会を受けるか、もしくは体育の授業を履修しなければなりません。また、トレーニングルームに入る際には学生証の提示が必要となっていますので、ご注意ください。怪我にも気を付けましょうね。マシンの適切な使い方を知って、マイペースに頑張りましょう。

体を動かすことは気分転換にも健康作りにもなります。授業やサークル活動、遊びなど何をするにしても健康でなければ全力で取り組んでいくことはできません。両施設に気軽に足を運び、キャンパスライフを謳歌できるようにしていきましょう。

（板垣亮平）

健康作りに通いましょう

学習院ならでは

近代の姿今に残す

正門を入り、直進すると、雑木林の中に佇む2棟の建物があります。モダンな校舎とはうってかわってレトロで、伝統を感じさせるこれらの建築物。実は、本学の歴史が深く刻まれているんですよ。

まず紹介するのは、百周年記念会館側に位置する、鮮やかな白い洋館である**北別館**（**史料館**）です。明治42年に図書館として建てられ、今年で築100年目を迎えました。館内には10万点にも上る様々な文献が所蔵されています。これらの史料は、北2号館の1階で開催される常設展示会や期間限定の特別展示会で閲覧できます。

さらに北別館には、平成9年に学芸員資格取得事務室も設置されました。そのため、一般的に学芸員になるのは困難と言われていますが、本学は他校に比べ5倍という就職率を誇ります。将来学芸員を目指すなら、是非足を運んでみましょう。

次に、大学図書館の北側にある**東別館**をご紹介します。一見落ち着いた、昔の小学校舎を思わせる風貌ですが、実は皇族にゆかりのある校舎なのです。東別館は元々、大正2年に皇族寮として誕生しました。当時の学習院は全寮制だったので、皇族という立場でも寮生活をしていたそうです。

そしてこの東別館は、キャンパスに現存する校舎の中でも、乃木館、北別館に続く3番目の古株なのです。東京大空襲の戦火を逃れ、今日に至りますが、全く老朽化を感じさせません。その証拠に、現在でも少人数の演習教室として使用され、新設校舎にも決して引けを取らない存在となっています。

今回紹介した二つの別館は、まさに歴史の宝箱。これ程の建物には、なかなかお目にかかれないものです。空き時間などを利用して足を向け、学習院の古き良さを肌で感じてみてください。

（田上ひかり）

催事の中心の場所

本学正門を抜け、鮮やかな桜並木に沿って歩いていくと、すぐ右手に姿を現すのが**百周年記念会館**です。入学式や卒業式はこの場所で行われます。大学生活の始点であり、終点でもあるため、学生にとって思い出深いものとなるでしょう。

正式名称は「学習院創立百周年記念会館」。昭和53年に創立100年目を迎えたことを記念して建設されました。4階建ての建物で、約1100名が収容可能な正堂を始めとして、小講堂、会議室、談話室などがあり、幅広い用途で活用されます。

利用例の一つとして、4月に開催されるオール学習院の集いが挙げられます。これはその名の通り、幼稚園生から卒業生までが集まって交流する行事なんですよ。その中で書展や音楽祭などの主なイベントが、ここで行われます。中でもオール学習院大合同演奏会の規模の大きさには、目を見張るものがあるでしょう。

そして秋の大学祭では、ミス学習院コンテストや、ミュージシャンを招いてライブを行う場となります。入学式に見た光景とは一変し、正堂全体が活気で満ち、様々な人であふれ返ります。普段とは違う正堂の姿を、是非一度は経験してみてください。

他にも講演会や就職セミナーなど、学外の方が参加できる行事もあります。そのため学内、学外問わず、多くの方々が活用できる場所でもあるのです。まさに百周年記念会館は学習院の中心となる建物と言えるでしょう。

（谷口竜基）

都内で森林浴

学習院には、他大にない一風変わったスポットが存在します。今からご紹介する場所は、忙しいキャンパスライフを送る学生の憩いの場となっています。

まずは、**血洗いの池**。名前だけ聞くと不気味な印象を受けるかもしれません。しかし実際に訪れてみると、そこでは池を囲む樹木が、都会の喧騒を忘れさせてくれます。周辺には散歩道が整備されており、ベンチも設置されていますよ。ここで一休みしていると、四季折々の自然が、訪問者を癒してくれるでしょう。

では、なぜ血洗いという恐ろしい名が付けられたのでしょうか。ここには、忠臣蔵の赤穂浪士であった堀部安兵衛が、決闘後にこの池で刀の血を洗った、という逸話が残っていました。それを典拠にして、大正時代に学習院高等科の文学青年が名付けたそうです。

次に、大学の施設としては珍しい場所を紹介しましょう。それは、講内の奥、木々の間にある石段下に広がる**馬場**です。この歴史も古く、明治41年にキャンパスが目白に移転した折に、厩舎と共に建設されました。これらは今でも使われていて、9頭の馬が飼育されています。各馬匹名に「綺桜」や「皇桜」のように、校章の「桜」の字が入っています。

本学らしい雰囲気や歴史を有する両箇所。これからの季節、新しい環境に疲れた時や、いつもとは違う所に行きたい時は、立ち寄ってみてください。短い休み時間の中でも、心身共にリフレッシュすることができるでしょう。

（菊岡真衣）

緑に囲まれた休憩所

長い歴史を偲ばせる

学習院は、第10代院長であった乃木希典（まれすけ）と深い関わりを持っています。ここでは、そんな彼にまつわる場所を紹介していきましょう。

西1号館の南に位置し、木々に囲まれて、他とは違う独特な雰囲気を持つのが**乃木館**です。明治41年に、学習院の敷地が新宿区四谷から現在の豊島区目白に移転しました。その際に建てられた6棟の寄宿舎の一部が、この建物なのです。

名称の由来は、当時の院長であった乃木希典が、寄宿舎で学生と寝食を共にしていたことに基づいています。彼は他の院長と異なり、学生に身近な場所で生活を共にし、学生の教育に当たりました。

そんな乃木館は、現在は一部の部活動が利用したり、集会所として活用されたりしています。また、大学祭期間中は実行委員のスタッフが準備のために使用しているそうです。

そして、乃木館の近くにあるのが御榊壇（おさかきだん）。これは学習院が目白へ移転した後に、初めて明治天皇が行幸されたことを記念して乃木院長が作ったものです。構造としては、周囲に石を巡らした前方後円風の壇となっており、円壇の中央には榊が植えられています。

このように学習院のキャンパス内には、乃木院長の軌跡が残る場所が数か所あります。それらを訪れて、彼が活躍した時代に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

（板垣亮平）

明治の趣残る北別館

味わい深い東別館

風格漂う乃木館

学習院基本用語集

先輩達が使うあまり聞き慣れない言葉達――何のことかと聞き返す前にチェックしてみよう！（掃）

～建物・施設編～

きたぐら【北グラ】 北グラウンドを指す言葉。運動部や運動系サークルは体育館と並んでここを利用することが多い。災害時の避難場所でもある。

ごがくとう【語学棟】 西1号館を指す。語学の授業などが数多く行われているが、部活、サークルなどの集会所としての顔も持ち合わせている。

ぴらこう【ピラ校】 今は亡きピラミッド型校舎の略称。懐かしむ声も多いが、形ゆえに教室が狭かったり冷暖房がなかったりと、過酷な環境でもあった。

ほじん【輔仁】 輔仁会館のこと。目立たない3階のラウンジは隠れ家的スポットになっている。

～学習編～

えいか【営科】 経営学科。経済学科は、**ざいか【済科】**。

しらばす【シラバス】 年度の始めに配布される、講義内容を記した冊子のこと。

すうか【数科】 数学科のこと。同じ理学部でも化学科、物理科は略して言うことは少ない。

ぜみ【ゼミ】 少人数で発表や討論をする演習形式の授業のこと。ゼミ選びはサークル選びと同じくらい大事。

にちぶん【日文】 日本語日本文学科。ドイツ語圏文化学科は**どくぶん【独文】**、フランス語圏文化学科は**ふつぶん【仏文】**。英語英米文化学科は**えいべい【英米】**や**えいぶん【英文】**と諸説ある。

ふるたん【フル単】 履修科目の単位を全て取得すること。是非成功させて皆からの尊敬を集めよう。

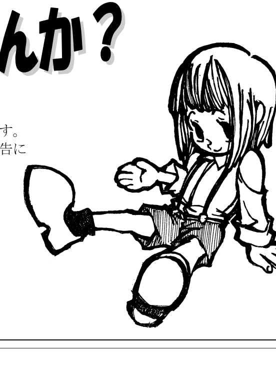
ほうか【法科】 法学科のこと。政治学科はなぜか短くして言わない。

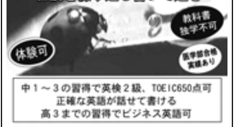
れじゅめ【レジュメ】 授業の内容をまとめたプリントのこと。入手の有無が生死を分ける。

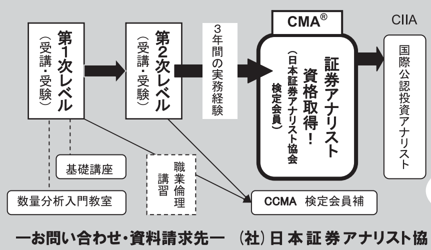
～その他～

いちじょ【1女】 1年生女子。同じ要領で2女、3女、4女と呼ぶ。

いちだん【1男】 1年生男子。同じ要領で2男、3男、4男と呼ぶ。

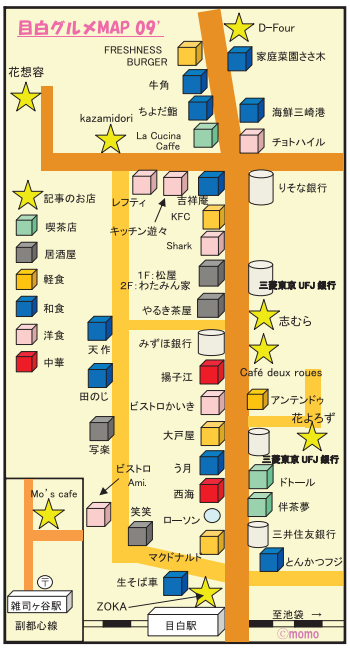






目白のグルメ大特集

目白駅前は魅力的な飲食店が充実しているので、通り過ぎるだけではもったいない。心踊る春兵、いつもは気分を変え、学外でランチを楽しんでみてはどうだろう。今号では素敵なお店をいくつか紹介したい。



kazamidori

優雅に楽しむ

学生ほいそ、たまには籐管様の学生時代に足を運びたいたいこの。そんな時は、目白ならではのちょっと贅沢なランチ。

閑静な街並みを少し歩くと、一際映える緑の外壁で囲まれた店が目入る。ここが今回紹介する洋食屋ストランkazamidori。

学習院周辺は都会でありながら、どこか面影を残して落ち着いた雰囲気に満ちている。Mo's cafeはまさにそんな空気を感じられる飲食店だ。雑司谷駅から徒歩2分程に位置し、住宅の間にひっそりと佇むこのお店。その姿は、隠れ家という呼び方がぴったりだ。

木材でセンスよく組み立てられたテーブルをぐるり、厚を開けると、そこにあるのはお洒落な欧風家庭料理屋。壁には「ポップなイラストが飾られ、BGMにはボッサ調の軽快な音色が流れる。店員さんもお客さんの楽しそうな声も響き、店内は誰でも快く迎え入れてくれるような、実に温かなムードだ。

ランチ時のメニューは常に7つ程準備されている。中でも人気があるのは、開業当時からの定番メニュー、ポテトコロッケランチ（840円）だ。さくっと揚げた衣とほくほくのジャガイモが、口の中で絶妙な一体感を奏でる。また、和風ソースハンバーグランチ（890円）は肉の旨味を心ゆくまま堪能できる、贅沢な一品。約1ヶ月ごとに煮込みハンバーグなど、常にその時々に気のあるものを提供されている。オープンキッチンに一人で厨房を切り盛りするシェフがいて、料理を作っているところを見ることも可能だ。

ランチメニューは、コーヒーが入ってるのでお得感がある。料理と単品が用意されている。一番人気のあるメニューは、Bランチ（1050円）だ。このコースは、肉または料理、ライスまたはパンを各それぞれ選択でき、それらに加えてスープ、ドリンクが付いてくる。そして、メインディッシュは自慢のようこのが売り。この日の魚料理は、魚類のポワレであった。ソースと魚の旨みが絡み合い、本場フランスの味を再現している。単品ではハンバーグカレー、オムライスドリアなど種類が豊富にあり、ボリューム満点なので、お腹いっぱい食べたい人におすすめだ。

当初はフレンチのみであったが、お客さんの需要に合わせてメニューを増やしていったのだ。スペインを含む地中海の料理などを、常にその時々に気のあるものを提供するこのお店。そのために何度も足を運ぶお客さんもいるのだ。

ランチメニューはそこそこ揃えられているが、これはお客さんの多くがリクエストによって商品が出れば、自宅でもお店の味を楽しめるようにとの配慮なのだ。

常連さんにとって第二の我が家とも呼べるであろうMo's cafeは、今年で開業10年目。店長の本橋さんは「ファミレス感覚で、是非当日を訪ねてほしいですね」と気さくに語ってくれた。アットホームな料理と優しい空間の中で、身も心も満腹になりたい、そんな願いは、この店にけばきっと実現されるだろう。

（大原梨花）

営業時間：11時半～14時L.O.（夜）18時～21時半L.O.
※土曜はおやま営業（14時半L.O.）

Mo's cafe

ほっと一息 隠れた名店

タイ料理 食べたい？

いつもとはちょっぱり違った食事をしたい、そんなあなたにお勧めのレストランが、D-Fourである。

そこには様々な種類のお酒が立ち並び、モダンで特殊な空間となっていた。一方、2階はエジプ風のカーテンに仕切られた個室が配置されている。どちらは掘りを気に入ず、友人達と過ごまにのんびりとお昼時を過ごしたいと、という際にうってつけだ。

ランチに出されているタリーンプレー（950円）は、定番メニューの一つだ。盛合せにするインドカレーとは一風変わって、黄緑色のスープのようなカレーに、タイ米が添えられている。このカレーはココナッツミルクをベースに、ハーブや何種もの香辛料が使われている。ほんのりとした甘さの後からやってくる辛さは、病みつきになる一品だ。シェフ一押しのメニューセットストキャンとロブ米のセット（1550円）は、現地でも人気の料理である。お皿に盛られた春巻はしお肉の食感と、米らがなかなか思ってもらえるような愛嬌。店長の寿山さんがお店を始めたきっかけは、目自に引きになる。新たな味に挑戦してみようと思っている。そこのあなた。是非目の前のタイ料理を賞味しに来て味あれ。（櫻木美莉愛）

定休日：なし
営業時間：11時半～15時半
ディナー　17時～22時
※曜日により変動あり

D-Four

至福のケーキ

目白通りに面したビル1階にあるCafé deux roues。少し特別なお茶をしたい人、恋人と2人でゆっくりしたい人、そこではたっぷりとした時間が流れていた。アンティーク調の内装が、優雅な気分にさせてくれる。店内中央のガラスケースには、常時数種類のケーキが収められている。窓際のカウンターに座れば、間近で淹れられるコーヒーの香りに、心が和らぐことだろう。

実はこの店、目白で密かに歴史がある。昨年、同じ場所で25年間営業していた喫茶店ルプティニが、惜しまれながら閉店した。そしてその旧店と同じスタッフがケーキを担当し、店名続けているのだそうだ。一口食べてみれば、誰しもが、現在のお店だという。

自慢のケーキは（全て単品550円）は、可愛らしい食器と共に運ばれてくる。定番のチーズケーキ、米との組み合わせは天下一品。トマトや人参は花の形に細工されており、見た目も鮮やかだ。

本学の先方もすっ顔を見せるというローラーの方。彼女は、学生証提示で100円引きになる。新たな味に挑戦してみようと思っている。そこのあなた。是非目の前のケーキを賞味しに来て味あれ。

（田川美穂）

Café deux roues

四季を感じる 和の心

創業から約70年間、本学の学生や業先に愛される和菓子の老舗、志むら。木製の看板を掲げ、厳かな雰囲気を漂わす佇まいは一見敷居が高い。だが店内は自当たりの良い席や心地よい音楽、手製の品書きなどにははっきりとした暖かみがあり、和の空間が広がっている。そんな志むらではお食事処も営んでいるのだ。

今回紹介する自目は一番人気メニューである赤飯弁当（890円）。待ってから10分程で湯気の立つ弁当が運ばれてきた。晴れの食事にふさわしい彩の豊かさに思わず感嘆するだろう。メインの赤飯は炊き加減が程好く、薄味で上品仕上がり。合わせは、まさに母の味を想起させる。なお、野菜もたっぷり摂取できるとのこと。

健康への心遣いも、偏食しがちな現代人には嬉しい。

さらにお腹を満たしたい方には、お得なセットとして300円でおかんつも付けられる。お昼の裏の工場で作られたあなどは、なめらかでしつこくない甘さが特徴、甘味で授業の疲れを癒す。

高品質を重んじ、季節感を大切にする。志むらには、そんな日本の風情が感じられる。敷居の高い呉服屋とは違い、肩合わせをしてみる。

（宮川彩）

定休日：日曜
営業時間：10時半～19時
※祝日は18時まで

志むら

一度で二度おいしい

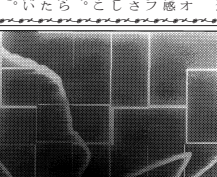
目白は、素敵なカフェが数多くある。ここではその中でも、元々異なる職業で活躍していたオーナーが開いたカフェを紹介したい。新歓期間で盛り上がるキャンパスを抜け出して、お気に入りのカフェを探しに行こう。

まずは、目白通りから一本小道にある花屋に併設された、手作りお料理にこだわったカフェ**花よろず**。

（営業時間：11時～19時
定休日：土・日。両者を休日定休日土・日。）

当時の姿のまま静かに時を重ねてきた家屋では、抹茶と和菓子のセット（800円）の他、手作りケーキなどが食べられる。

着物メイカーも営むオーナーは、「和装を身近に感じてほしい」と言う。ソファーに座ったりと目線の高さや街角など、オーナーこだわりの和小物が並ぶ。カフェを訪れ、壁際に飾られた反物に興味を持ったなら、お店の人に話を聞いてみてはいかがだろう。



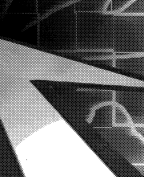
見目や体型に合わせて着物を仕立てくれる。敷居の高い呉服屋と違い、肩の力を抜いて着物に親しめるはずだ。

花屋や呉服屋、なかなかふらりとはけち寄り難い。しかし、これらのお店から、食事と共に気軽に楽しむことができる。特別な一時を、是非ここで味わってほしい。

（福田美純）

次にカフェと和菓用品を扱っている職業で活躍していたオーナーが開いた定休日・火・水・祝）は、大正10年に建てられた居民家を店舗としている。

100円引きにしてくれるとのこと。



花想容（営業時間：11時半～18時半

定休日：土・日。）

ランチは、「和装を身近に感じてほしい」と言う。ソファーに座ったりと目線の高さや街角など、オーナーこだわりの和小物が並ぶ。カフェを訪れ、壁際に飾られた反物に興味を持ったなら、お店の人に話を聞いてみてはいかがだろう。

こだわりの一杯を

目駅を出て、すぐ左手に見えるのがZOKAカフェである。その立地から常連さんが絶えず、本学生にも多く利用しているようだ。

1990年代のシントロ、カフェームで次々と喫茶店がオープンしていた。そんな流行を背景に誕生したのが、ZOKAである。

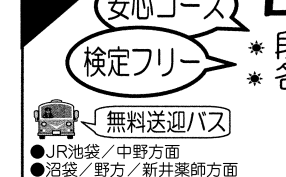
日本上陸後、コーヒー豆はシアトルで焙煎し3日以内のものを、空輸で取り寄せているという。これは、本場の味を新鮮な内に味わってほしいという思いからなのだろう。

そして、このお店は数のバリスタがいることでも有名である。バリスタとは、主にエスプレッソの抽出を専門に行うコーヒー人。ルティ（450円）には、ふたりの工夫が施されている。クリームがかかっている。

定番メニューの中で人気なのは、黒みつコーヒーである。黒みつのまろやかな甘みに加え、コーヒーの香りをトッピングの黒ゴマが引き立てる絶品だ。冷たいものが飲みたいときは、シャーベット状の黒みつ。ぜひ、ご賞味ください。

フローズンドリンクが一押しの彩り目を奪われる。その彩り目を奪われるランチセット（880円）もおすすめだ。パニーニにパンケセサラス、目替わりテザ、ハニーアーモンドシュルキー（450円）には、ふたりの工夫が施されている。クリームがかかっている。

ランチタイム：11時～15時



ZOKA

学習院大学新聞 On Webへ 今すぐ アクセス。